

プレスリリース
報道関係者各位

2010年9月8日
環境エネルギー政策研究所(ISEP)

ISEPがリードしてきた「緑の分権改革」の先行例

市民出資による「立山アルプス小水力発電事業」が始まりました

持続可能なエネルギー社会の実現に向けて、その政策研究から実践までを手がけるISEPの活動の一環として、その実践の実例が始まりますので、ここにお知らせします。

富山県の地域の方々が小水力発電を開発・推進するために設立した地域事業体「株式会社アルプス発電」が行う小水力発電事業に対して、ISEPの活動の実践主体であるエナジーグリーン株式会社(代表取締役:飯田哲也、東京都新宿区)が市民出資による資金調達を協力する共同事業者となって、**2009**年度の環境省市民共同発電事業に採択されたものです。

このたび、その小水力発電事業に対する日本で初めてとなる市民出資を、第二種金融商品取引事業者である「おひさまエネルギーファンド株式会社」(共同代表取締役:飯田哲也/原亮弘。東京本社:東京 都中野区/長野本社:長野県飯田市。通称「おひさまファンド」)が取扱者となって、立山アルプス小水力発電事業への市民出資募集を平成**22**年**9**月**8**日より開始することになりました。

富山県の立山連峰の名峰「剣岳」から流れ下る早月川水系の溪流を用いた小水力発電事業への市民出資を募集します。小水力発電とは、発電出力が一般に**1**万キロワット以下の、河川環境や周辺環境に影響の少ない水力発電を指します。もちろん、二酸化炭素を排出しないクリーンな純国産の自然エネルギーとなります。

この市民出資による小水力発電事業が成功することで、従来ISEPが提唱し、今や国も進める自然エネルギーによる「緑の分権改革」など、地域主導の自然エネルギー普及で重要な先行例となることが期待されます。

■ 「立山アルプス小水力発電事業」について

一般の市民より出資を募り、富山県小早月川に、小水力発電設備導入を行います。事業主体は、地元企業である株式会社アルプス発電(<http://www.alps-power.com/>)で、地域の企業による地域の事業として実施されます。環境省のモデル事業に選定されており、**2010**年**9**月**8**日より募集を開始します。

☆本市民出資の詳細は以下リンク先を参照ください。

<http://www.ohisama-fund.jp/weblog/images/100908fundstartPR.pdf>

■ これまでの「おひさまファンド」の実績

2004年の設立以来、これまでに「南信州おひさまファンド」、「温暖化防止おひさまファンド」「おひさまファンド **2009**」を実施してきました。**3**つの事業を合わせて**1,274**名から合計約**7**億円の出資金を得て、約**160**施設に太陽光パネルを設置、約**40**施設に自然エネルギー

ギー/省エネルギー設備を導入しました。運用状況も順調で、2007年より毎年予定通り1.1%~3%前後の分配を実施しています。「おひさまファンド」の取り組みは2008年1月放送の「クローズアップ現代」で特集されています。
また、出資対象事業は、環境省のモデル事業に採択されており、助成金を受けております。

【このプレスリリースに関するお問い合わせはこちら】

環境エネルギー政策研究所 (ISEP)

担当:氏家 E-mail: info01@isep.or.jp

TEL: 03-5318-3331, FAX:03-3319-0330